

令和3年10月13日

## 日本脳炎患者の発生について

### 1 概要

令和3年10月8日（金）、東部保健所に医療機関から日本脳炎患者の発生届出がありました。

報道各社においては、患者のプライバシーに配慮し、医療機関への取材はお控えくださるようお願いいたします。

### 2 患者の状況等

患者：国東市在住の80歳代（女性）

主な症状：発熱、頭痛、項部硬直、意識障害、けいれん、筋硬直、脳神経まひ、不随意運動

<経過> 9月12日（日）39.1℃の発熱、ぐったりしていた

A医療機関受診、入院

9月13日（月）B医療機関を受診後、C医療機関へ緊急搬送

9月29日（水）死亡

10月8日（金）検査の結果、日本脳炎と診断され、東部保健所へ届出

### 3 保健所の主な対応

保健所は、疫学調査等を実施

### 4 大分県及び全国における日本脳炎患者届出者数

|           | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大分県       | 1     | 0     | 0     | 0     | 1     |
| 全国（大分県除く） | 2     | 0     | 9     | 5*    | 0**   |
| 死亡例       | 0     | 0     | 1     | 未公表   | 1     |

\*暫定値

\*\*2021年第38週（～9月26日）

### 5 病原体、感染経路及び症状

日本脳炎は、蚊（主にコガタアカイエカ）が媒介するウイルスによる感染症で、感染しているブタ等を吸血した媒介蚊がヒトを吸血することにより感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。日本では夏から秋にかけて患者が発生します。

潜伏期は6～16日間で、感染しても日本脳炎を発病するのは100～1,000人に1人程度であり、大多数は無症状に終わります。典型的な症例では、数日間の高熱、頭痛、悪心、おう吐、めまいなどがあります。このような症状があれば早めに医療機関を受診してください。

## 6 予防方法

ウイルスを持つ蚊（コガタアカイエカ）の対策と予防接種（定期接種）があります。一般に日本脳炎の感染リスクは農村部で高く、都市部で低いと考えられます。

しかし、コガタアカイエカは活動範囲が広いいため、都市部であっても日本脳炎に感染するリスクはゼロではありません。

コガタアカイエカは日没後に活動が活発になるといわれています。以下の点に注意して、ウイルスを持った蚊に刺されない工夫が必要です。

### 【蚊の対策】

- ・ 戸外へ出かける必要がある時は、できる限り長袖・長ズボンを身につけること
- ・ 露出している皮膚へ虫よけスプレーなどを使用すること
- ・ 蚊が屋内に侵入しないように網戸を使用し、夜間の窓や戸の開閉を少なくすること

### 【予防接種】

日本脳炎ワクチンを接種することでリスクを 75～95%軽減することができると報告されています。